

HOIKU ほいく静岡 SHIZUOKA

発行 静岡県保育連合会 <https://www.hoiku-shizuoka.jp/>

95

令和7年度上期



- 2. 新会長挨拶
- 3. 令和7年度定時総会・所長研修会
- 4. 前会長退任挨拶
- 5. 第64回静岡県保育研究大会
- 14. 県保育研究大会に参加して
- 16. 令和6年度新規採用予定職員研修会
- 19. 令和7年度新規採用職員研修会
- 20. 令和7年度青年部会全体集会・研修会
- 21. 支部だより
- 22. 委員会報告



新会長挨拶



静岡県保育連合会会長　岡田泰稔

令和五年度に一般社団法人となつた静岡県保育連合会は初めての役員任期満了を迎える六月二十日に開催された定時総会に於いて新たな役員を承認して頂きました。その後開催された新理事會にて互選をいただき、会長、副会長の業務執行理事と、前会長の顧問就任が決議され、いよいよ新体制での任期がスタートいたします。

連合会をここまで組織にしてくださった諸先輩の功績を目の当たりにしてきましたので、私が会長という大役を受けさせて頂くにあたっては、不安な気持ち以外を持ち合わせることができませんが、ご推薦頂きました新役員の皆様、会員の皆様に後悔させることのないよう全力で勤めさせて頂きます。

少子高齢化の厳しい現実は、大きな足音を立てて日本全体を震えさせています。待機児童問題はおよそ解消に向かい、今では一部の都市部でのみ入所待ちを数える現状となりま

した。その一方で過疎地域に限らず極端な人口減少が取り沙汰され、報じられた昨年度の出生数を見るに国の先行きを危ぶまずにはいられません。『次元を超えた少子化対策』はその功を果たせず、我々の保育施設運営に不安の陰を色濃く落とします。減り続けること

もの数を見越してか、配置基準が数十年ぶりに改正されましたが、関わりの無い様々な条件が課され、社会全体が未来を担うこども達を大切に思つての制度改革とは到底受け止められません。

そんな大人の事情とは関せず、目の前にいるこども達は今日も元気に汗をかいて走り、目を丸くして学び、時には喧嘩をし、仲直りをして日々成長を続けます。

こども達の数が減ろうとも、現場にはこども達と一緒に汗をかいて下さる保育者の皆さんがいます。

こども達の成長を見守り、現場保育者の仕事と生活を支える為にも、管理者の皆様が持つ不安や不自由さを、行政と共有できる体制作りが団体に求められているのだと考えております。

静岡県保育連合会は保育団体としての発足から六十五年。時代の流れや制度の改正、社員の皆様、会員の皆様に後悔させることのないよう全力で勤めさせて頂きます。

岡田新会長
民間新副会長
右から
青野副会長（東部支部長）・笠井副会長（中部支部長）・山田副会長（西部支部長）・北山副会長・野中副会長（静岡県保育士会会長）



ように、それを見守る保育関係者の皆様が安心して保育に邁進できるように、支えられる団体を目指したいと思います。皆様にもご協力とご理解を賜りますよう、かさねてお願いいたします。

令和7年度

静岡県保育連合会定時総会 所長研修会 開催

期日 令和七年六月二十日

会場 静岡市 グランシップ

令和七年六月二十日、静岡市のグランシップにおいて「令和七年度静岡県保育連合会定時総会並びに所長研修会」がおこなわれました。

当日は、静岡県健康福祉部こども若者政策部長赤堀健之様、静岡県社会福祉協議会常務理事藤原学様、静岡県健康福祉部こども若者局こども未来課長松本文様をご来賓としてお迎え開催されました。

最初に連合会の土山会長より、近年の急速な少子化問題、その環境づくりのための保育新しい事業について現時点での問題点などをお話ししていただきました。これらは、制度改革や運営について、県内の保育所、認定こども園などに通うすべてのこどもの

ため、そこに働くすべての職員のため、会員の皆様と一緒になつて少しでも良い方向に向けていけるように最大限の努力をしていきました。

その後、赤堀部長、藤原常務理事からもご祝辞をいただきました。

次に、総会に移り、定款の規定により会長が議長となり議事が進行されました。議案として第一号議案 令和六年度事業報告及び決算について、第二号議案 定款変更について、第三号議案 役員の選任についての議案が審議され承認されました。また、報告事項として令和七年度の事業計画及び当初予算について報告がありました。

テーマでご講演いただきました。

色々な事例を使い乳幼児の視点から「主体性」についての考察を伝えて頂きました。総じて、子どもの主体性や自己決定は、他者や環境との関係の中にあらわれるため、身の回りのささいなやりとりこそ重要である。そのため、身の回りの人・もの・コトと子どもたちのつながりが豊かになるように環境や関わりをしつかり考えていくことが特に重要である。そして、やっている活動の意味を子どもたちがわかることが必要であるため、ささいなやりとりから丁寧に保育をしていき「つながり」を日々育んでいきたいと思いました。



静岡県健康福祉部こども若者政策部長赤堀健之様、静岡県社会福祉協議会常務理事藤原学様、静岡県健康福祉部こども若者局こども未来課長松本文様をご来賓としてお迎え開催されました。



最初に連合会の土山会長より、近年の急速な少子化問題、その環境づくりのための保育新しい事業について現時点での問題点などをお話ししていただきました。これらは、制度改革や運営について、県内の保育所、認定こども園などに通うすべてのこどもの



激動の六年間を振り返つて

～静岡県保育連合会会長 退任挨拶～

前会長 土山 雅之



に出発できたことは、何よりのことです。

私が就任して一年もたたない令和二年一月に入り、新型コロナのパンデミックがあり、社会の動きが一挙にストップしたことは忘れられません。そんな中ではありましたが、県保連は設立六十周年を令和二年に迎え、記念式典、記念講演、記念誌の発行を計画しました。

もちろんコロナ禍のため計画通りに実行することはできませんでしたが、中止にするのではなく、どうしたら実行できるかということに理事の皆様の知恵を絞つていただき、まずは汐見先生と大豆生田先生の対談形式の記念講演をオンラインで行い、一年遅れの令和三年に記念式典を思い切って集合形式で実施できることは大変に嬉しかったです。記念誌も計画通りに発行することができ、一つの区切りを付けることができました。

ところがコロナ禍が収まりかけた令和四年、静岡県内において立て続けに全国から注目された不幸な事件事故が発生してしまいました。九月にバス内へ子どもを置き去りにした事件、十一月には園児に対する不適切保育を行っている事件、両者ともに現場の保育士の疲弊と周りの子ども達への影響は計り知れないものがありました。県保連としても、なんとか助けにならないかと、県保育士会と協力し、対象園へ手伝いの保育士を派遣したり、心理士を手配したりして対応しました。この

事件事故により改めて子どもの人権と安全という一番基本的な部分を改めて見直すきっかけになつたことはせめてもの救いです。

キャリアアップ研修も県と相談・交渉をし、予算を確保しながら県の保育力の向上のため、保育者のスキルアップのため開催しております。

以上のように、今まで経験したことのないことも多く、手探りの中、試行錯誤の中でなんとかここまで来ることができました。ここまでこられたのは役員の皆さん、さらには会員の皆様、多くの皆様のご理解とご協力があつたからこそだと思います。本当にありがとうございました。

平成三十一年（令和元年）四月、後藤前会長の後を引き継ぎ、静岡県保育連合会の会長に就任させていただき早六年の歳月が過ぎました。未曾有の経験であるコロナ禍を挟んでの在任中は、激動の六年間ということが言えるのではないか。本当に様々なことがありました。

まずは後藤前会長からの申し送り事項として、静岡県保育連合会をそれまでの任意団体から、法人格を持つ了一般社団法人にすることが最初の課題でした。それは県保連の継続性を担保し、社会的に責任ある団体として認知してもらうためには必須のことでありました。いくつかの糾余曲折はありましたが、島村事務局長のはからいもあり、六十周年を期に令和五年から無事一般社団法人として新た

事件事故により改めて子どもの人権と安全という一番基本的な部分を改めて見直すきっかけになつたことはせめてもの救いです。

キャリアアップ研修も県と相談・交渉をし、予算を確保しながら県の保育力の向上のため、保育者のスキルアップのため開催しております。

第六十四回 静岡県保育研究大会

令和七年一月三十一日 沼津市 プラサヴェルデ

速報

「第六五回 関東ブロック保育研究大会 相模原大会」開催される

令和七年一月三十一日沼津市のプラサヴェルデに於いて、二〇二四年度静岡県保育研究大会が開催されました。本大会には、一五三名の大会運営関係者を含む五〇〇名が参加しました。

ホテルAでの開会式では、県保育士会野中徹副会長により児童憲章が朗読され、土山雅之運営委員長の挨拶に続き、開催地沼津市の吉澤勇一郎副市長様、県健康福祉部豊田大二ども未来局長様、県社会福祉協議会藤原学常務理事様からそれぞれにご祝辞を頂戴し、各会場に分かれ分科会の時間が始まりました。次回大会より、分科会数が六となるため、本年度が八分科会で開催される最後の年となりました。

各分科会それぞれで東部・中部・西部各地の発表がなされ、日頃の実践をさらに深く考察した内容が披露されました。いずれの発表からも、保育者自身が日々学び工夫を重ねている様子や保育への熱い思いが伝わってきました。また、各分科会とも、助言者の先生方からの適切なアドバイスや発表に関連する広い観点からのお話もいただき、参加者一同、より質の高い学びを得ることができました。

一般参加者からの質疑も活発に行われ、午前中になされた発表だけでは気づけなかつた部分には、丁寧な回答が引き出され深い学びに繋げることが出来ました。



どの発表も甲乙つけ難い中、相模原市で開催される関東ブロック保育研究大会に派遣される議長・発表者が選抜されました。閉会式では今大会の研究成果を広く内外に伝えるために「大会宣言」が採択されました。今大会を成功裡に終えることができ、準備を重ねてこられた発表者の皆様、助言者の皆様、運営に携わった皆様、そして各園の現場を支えてくださった皆様等関係者各位に、心より感謝申し上げます。

これからも、学びあう仲間としてお互いに支えあい、静岡県の保育を盛り上げていきましょう。

令和七年七月三・四日に相模原市において、関東ブロック十五都県市より保育関係者が参考し、「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざしての主題のもと、標記の大会が開催されました。

静岡県からは、「第六五回静岡県保育研究大会」に於いて選出された、第六分科会議長に、函南町 ひまわり保育園 渡邊栄子園長、発表者には、第四分科会の菊川市 みなみこども園 落合孝行園長、第八分科会の静岡市立東豊田こども園 増田寿子園長、静岡市立登呂こども園 富永純子園長が静岡県の代表者として登壇されました。

また、開会式において、土山雅之前会長が関東ブロック保育協議会役員としての功績が評価され、感謝状が授与されました。

第一分科会

テーマ【新たな時代の保育実践】
～すべての子どもにむけて～

発表者 ①三島市 市立伊豆佐野保育園

保育士 飯田真美子

②静岡市 市立下川原こども園

保育教諭 山梨 彰汰

③浜松市 浜北西保育園

保育士 大城紗矢佳

議長 静岡市 春日保育園

助言者 静岡県立大学短期大学部

こども学科特任教授 永倉みゆき

記録者 静岡市 有度十七夜山保育園

園長 笠井 友泰

発表(一) 幼児期における金融教育とは

「伊豆佐野保育園独自通貨

佐野チップを通じて」

幼児期にお金について考えることは可能なのか。

独自通貨「佐野チップ」を使い金融教育についての研究を行った。お店屋さんごっこ等の遊びの中で、働くとお金がもらえる・貯めると高価なものが買える・使つたらなくなるという基本的な通貨の性質やコミュニケーションスキルが身に付き、数字や文字への関心、仕事を任される責任感等、様々な子ども達の成長する姿を見ることが出来た。ただ、

子ども達が関心を引くような色々な仕事の設定や興味のない子への配慮も必要だった。また、この様な取り組みには保護者との連携や職員の話し合いの時間の確保等様々な苦労があつた。

発表(二) 五歳児交流を通して、地域の繋がりを深め、円滑な幼小接続を目指す保育

コロナ禍で社会との接点が減る傾向にあつたが地域とのつながりの重要性を再認識する

活動を、就学を控えた五歳児同士の交流をICTを取り入れ子どもが楽しみながら行える

ようく研究を進めた。長田地区の近隣五ヶ園で対面やzoomでの交流を進めていった。

仲間意識の芽生えやコミュニティの広がりが見られたり、自分の思いを積極的に表現したり、人に対して思いやりを持つて関わろうとする子が増えていった。小学校の学区が同じ子ども達が多いので、幼小架け橋期の円滑な接続となるよう努めていきたい。また、災害時にも園の垣根を越えて子どもを観合う体制を作り、対応できるように交流を継続していく。

助言者より

幼保こども園の違いや園の大小によつて職員の話し合いの時間を確保することは難しいが、よく話し合いを重ねていたと思う。やりたくない子への配慮等も行い、保育指針に基づき幼保小の繋がりや地域を意識した取り組みとなつていた。注意すべきは小学校教育の先取りをしたり、先生の望む姿を子どもに当てはめないように、遊びの中から組み立てていきましょう。と助言を頂きました。



第一分科会

テーマ【配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて】

発表者 ①伊東市 市立富士見保育園

②川根本町 町立三ツ星保育園

③浜松市 市立江西保育園

主 任 鈴木 好美

主 任 大岩 祐佳

主 任 青木のりこ

主 任 鈴木 里美

主 任 大石 里美

主 任 鈴木 敏江

主 任 鈴木 純江

発表(一) 家庭支援

助言者より

自然が豊かで療育施設のない町だからこそ

子どもにかかる全ての人と連携を密にし、心身共に健やかに育てる取り組みを行つた。

事例として特性の異なる二人に知育プログラムを計画し、個の特徴を踏まえた支援を実践していく。定期的に教育相談員からアドバイスをもらい、一人一人に適した支援を継続的に取り組んだことが二人の力となつた。

環境が変わつても崩れることなく小学校への移行がスムーズになるよう関係機関が一丸となり、「町の子どもは町で育てる」という思いでより良い支援を行つていきたい。

発表(二) 一人一人を大切にする保育、

関係づくり

子ども達が過ごしやすい環境を整えることをテーマとし、特性を理解する方法を学び、その中で保護者とどう向き合つていくか考えみ②加配児の交流の二点に焦点をおいた保育実践をまとめた。一緒に保育計画を立て細かく話し合い職員同士の連携を図り、子に合わせた参加の仕方や内容の工夫をしたことで、色々な経験ができる子ども達が成長していく姿があつた。

関係機関見学での学びを通して保育園としてできることを考え、保護者の困り感をどう引き出していくかをアンケートで探つていく

と同時にスマールステップの支援を組み立てていった。関係機関や家庭と連携をとりながら成功体験を重ねた関わりを継続していく。

芽生えたり、お互いの刺激を受け視野が広がったり相互の成長があるため今後も一緒に育ち合える保育環境を大切にしていきたい。

と、困った行動が気持ちの表れと捉えることができた。今の関わりが土台となり将来花開くことを信じて子の育ちと家庭の支援を継続していきたい。

発表(一) 児童発達支援事業所

関係づくり

園と隣接している児童発達支援事業所と三十年以上共に生活し、交流している。そのような保育環境から①合同運動会への取り組み②加配児の交流の二点に焦点をおいた保育実践をまとめた。一緒に保育計画を立て細かく話し合い職員同士の連携を図り、子に合わせた参加の仕方や内容の工夫をしたことで、色々な経験ができる子ども達が成長していく姿があつた。

一緒に過ごす中で優しさやいたわりの心が



第三分科会

テーマ【保育者の資質向上を図り、
保育現場の魅力を発信する】

発表者 ①富士宮市 市立上井出保育園

②焼津市 保育園協会保育部会
たかくさ保育園

保育士 小野田 穂香

③浜松市 聖隸こども園めぐみ
保育教諭 朝倉 紗央

議長 富士市 松岡保育園
副園長 山崎 文隆

助言者 常葉大学保育学部
教授 山本 瞳

記録者 富士市 富士保育園
園長 後藤 匡

発表(一)
「こどもも大人も安心して過ごせる
富士宮市立保育園」を目指して

～次世代リーダーたちの学びと
取り組み～

富士宮市の十三カ園の公立保育園で取り組む「次世代リーダー養成研修」は三十五歳以上の中堅保育士を対象に行い十三年目を迎える。公立園の特徴として異動や地域性、園ごとの特色など、保育の方向性を共有し、どこに配属されても同じ方向を向いた保育ができる土台作りとして取り組む。リーダー同士で

の保育の語らいや同僚性を育むワークでは自己理解を深め、職員同士が安心して発言できる環境を作ることが必要だと感じた。課題レポートでは自分たちの保育を言葉にし、具体的に確認することで資質向上につながった。信頼関係から安心・同僚性が生まれ、子どもについて安心して語り合え、過ごせる場所であることがより質の高い保育を生み出すサイクルを作ると感じた。

発表(二) 子どもたちの育ちを支える保育の実践～園見学から学ぶ～

焼津市内公私立十三カ園では毎年部会ごとにテーマを決め活動している。中堅保育士部会では年間を通して市内の保育士たちで前後半に分け各園を見学し合い、各園の実践を見ることによつて学んだことを共有し、子どもたちの育ちを支える保育について多面的に考察していく事を目的とした。見学を受け入れあることで自園には無い異年齢保育や遊びの環境などを見ることができ、子どもの姿からの気づきや新たな視点の意見をもらうことができた。各園の実践を見学することによつて気づきを得て意識を向上させることにつながつた。

発表(三) 「子どもの表現の研究」を通して

保育の質の向上を目指し毎年行う保育学会では各園の課題をテーマとして取り組んでいく。ワークショップ型園内研修やそれを踏まえた保育実践の共有・振り返りを園内で発表する。保育場面を可視化し、研究の場を通して

各園の強み弱みを発表し合い共有し、生かし合うことで自分の園の保育の幅が広がり、新しい課題を発見したり子どもを見る目を養うことことができ保育の質の向上につながつていると感じる。子どもをより深く捉えることができることで保育の楽しさ、やりがいにつながつていい、保育者自身も成長していくことができる。

助言者より

分科会のテーマの「質を高める」は限定して二つの要因しかなく保幼小接続と家庭教育への介入であり、就学前の保育をどう進めていけばいいかは明確になつてはいる。子供同士のそこで出てきた言葉だけ、表情だけを拾うのではなく行動そのものを記述することを心がけてほしい。問題解決を図るそのベースを就学前に作る。それには必要なのが非認知能力であり、それができることが証明が十の姿になる。それぞれの園で取り組んだ報告も体系化することで園の風土やルールになる核ができ保育者一人一人と園全体の理解が深まつて保育に対する理解が深まつていくようなことにつながる。



第四分科会

テーマ【地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて】

発表者 ①富士市 市立浅間保育園

主任 内藤千香子

②静岡市 市立有度西こども園

副園長 田中紫保子

③菊川市 みなみこども園

園長 落合 孝行

議長 静岡市 市立瀬名川こども園

園長 内野 有子

助言者 静岡福祉大学子ども学部

教授 永田恵美子

記録者 静岡市 市立八幡こども園

園長 山本 知子

発表(一) 地域の子育て家庭への支援の充実にむけて 今の時代に求められる子育て支援～みえる・わかる・つながる～

これまでの子育てについての情報の発信は利用者が限定されていたことから、在園家庭だけでなく未就園の保護者の子育ての悩みを探り、必要な情報を発信し、現状に寄り添つた支援に取り組んだ。園の特色を活かしたプロジェクトの活動を発信したり園の生活を撮影した動画の視聴会や、栄養士による講話を行うと参加した保護者から「入園前に園のことが知れてよかったです」と好評だった。今後も

発表(二) 地域の子育て家庭への支援の充実にむけて 保護者一人一人の抱える課題や悩みに寄り添い専門職としてできること

子どもの健やかな成長のためには保護者の心身の安定が重要であると考え、子育て家庭のニーズに寄り添った支援について見直すとともにこども園の役割について考えた。おしゃべりサロンに参加した親子の事例や、保護者

者の思いやニーズを調査するため、アンケートを実施した。集めた事例を園内で共有することで保育者の意識を改革することに繋がった。企画を工夫したことで参加者から「参加してよかったです」「また行きたい」という感想を聞くことができた。こども園は保護者が気軽に相談でき安心して思いを出せる場所となり、保護者の思いに寄り添いながら、子ども一人一人の育ちを丁寧に支えていきたい。

発表(三) 地域の子育て家庭への支援の充実にむけて こども園を中心とした地域コミュニティ形成の可能性

これまでの子育てについての情報の発信は利用者が限定されていたことから、在園家庭だけでなく未就園の保護者の子育ての悩みを探り、必要な情報を発信し、現状に寄り添つた支援に取り組んだ。園の特色を活かしたプロジェクトの活動を発信したり園の生活を撮影した動画の視聴会や、栄養士による講話を行うと参加した保護者から「入園前に園のことが知れてよかったです」と好評だった。今後も

地域と家庭の架け橋となり、支援を続けていきたい。

り、未就学児から小学生までの参加者と中高生ボランティアが集まり、これまでに二回開催することができた。こども園を中心とした地域コミュニティを形成し、多世代がつながることで多様な効果が生まれやすいのではないかと感じた。

助言者より

こども家庭庁の「幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョン」に示されているように、誕生からの一〇〇か月は非認知能力を育て、生涯の幸せを育てる時期である。地域や園の特徴を活かして、様々なことに取り組み、切れ目のない支援をしていくことが大切。保護者の悩みは子育てに対する不安。子育ての方法を具体的に伝え、できたところをほめていく。上手いかなくとも「また相談したい」と思つてももらえるといい。



第五分科会

テーマ【子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくりにむけた関係機関とのネットワーク】

発表者 ①沼津市 青空保育園
主 任 渡邊 有子

②静岡市 私立保育園園長会
保育内容部会

風の子保育園
園長 白鳥 昌世

③磐田市 バディ保育園
主 任 川上 由理

議 長 浜松市 子育てセンターかきのみ
園 長 中野 久実

助 言 者 常葉大学健康プロデュース学部
教 授 柴田 俊一

記録者 浜松市 子育てセンターかきのみ
主 幹 一瀬 彩

た。「子どもの最善の利益」をより高いレベルで実現するため、今後も目的を具体化し園と関係諸機関とのさらなる連携、取り組みを行っていきたい。

園と小学校との接続、連携についてより良い方向に導く為の方策を求めて、研究をおこなった。小学校側に園生活や園児一人ひとりを理解してもらう機会を作ったり、園側も小学校を理解し、学校見学や登校体験等、学校への積極的な提案、計画、実施などアプローチが必要であることが分かった。小学校とのよりよい連携の構築を目指し、接続、連携が取りやすくなるよう、今回の学びを活かして連携を深めていきたい。

発表(二) 小学校とのより良い接続・連携をめざして

園と小学校との接続、連携についてより良い方向に導く為の方策を求めて、研究をおこなった。小学校側に園生活や園児一人ひとりを理解してもらう機会を作ったり、園側も小学校を理解し、学校見学や登校体験等、学校への積極的な提案、計画、実施などアプローチが必要であることが分かった。小学校とのよりよい連携の構築を目指し、接続、連携が取りやすくなるよう、今回の学びを活かして連携を深めていきたい。

発表(三) 園行事を通して、地域とのつながりを考える

「子ども一人育てるには村人百人の力が必要」子どもを育てるには家族以外のたくさん的人が関わって、やつと子どもが育つ、というアフリカの諺を表すような連携についての研究であった。園を取り巻く物的・人的な社会資源を明確化させる「エコマップ作り」をぜひ取り入れてもらいたいと思う。地域の中に存在する園、地域に守られて育つ環境に置かれているということを、保護者や来園者に明確に知らせることができるツールとして利用してもらいたい。そして地域と共に、子どもの育ちを支え、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいくことが大切である。

助言者より

園が掲げている保育目標が抽象的で曖昧であり、協同すべき諸機関とは何か明確化されていないことが問題点としてあがつた。この問題状況をふまえて、保育目標を子どもの望ましい行動や態度として具体化し、それを実現させるために利用する資源を探つたり、連携できる人、諸機関をリストアップしていく



発表(一) 保育目標の「見える」化と関係諸機関の具体化の試み

園が掲げている保育目標が抽象的で曖昧であり、協同すべき諸機関とは何か明確化されていないことが問題点としてあがつた。この問題状況をふまえて、保育目標を子どもの望ましい行動や態度として具体化し、それを実現させるために利用する資源を探つたり、連携できる人、諸機関をリストアップしていく

第六分科会

テーマ【家庭や地域の連携による食育の推進】

発表者

①伊豆の国市

市立あゆみ保育園

主任 和田 明美

②島田市 食育研究部会

市立第三保育園

③袋井市 いわた保育士会研究部会

市立山梨こども園

保育教諭 岩附 愛菜

議長 函南町 ひまわり保育園

園長 渡邊 栄子

静岡英和学院大学短期大学部

食物栄養学科

講師 小川ももこ

記録者 伊豆の国市 ひまわり保育園

園長 佐藤理佳子

発表(一) 食べることは生きること

子どものための食育とは何か

一人一人の食への興味関心や嗜好が異なる中、保育における子どもの食育計画と実践に向けて、家庭、保育園、地域と連携しながら食環境の工夫と栽培活動に取り組んだ。①食物シルエットクイズや給食ランチョンマットを作りし食への興味関心を育んだ。②スイカと椎茸原本の栽培活動を行った。栽培過程の中、カラスからスイカを守るために子ども

同士の話し合いや近隣の農業高校生に育て方を聞くことで収穫に繋がった。椎茸原本の育て方は、保育士も分からぬことから地域の椎茸先生に教えるもらいながら椎茸小屋と一緒に作り育て食した。結果、子どもが主体となり色々な活動を進めることができ、食への関心や意欲に繋がった。

発表(二) 「お口ぽかん」を通して 保護者、保育者、調理員の連携を図り楽しく食べる子を目指す

島田市食育推進計画つなげる食育・つながる

食育を根幹に置き、口を閉じて食べられない子(お口ぽかん)に着目し、その学習を通して保育者、調理員、保護者、地域との連携を

研究の目的とした。内容は①お口ぽかんの子の実態調査を行い人数把握②歯科医や管理栄養士から食育の知識や鼻呼吸の重要性を学んだ。③研修会の学びを基に、保育に全身から口の動きを取り入れた運動を行ったり、給食によく噛んで食べるカミカミメニューの提供をした④地域の老人ホームへ訪問し口の運動を伝えたり管理栄養士による保護者向けの講習会を実施。結果子どもはよく噛んで食べるようになり保育者、調理員、保護者、地域の学びの連携とこども理解が深まつた。

助言者より

食育は、生活全般を占め、経験により生まれるため、大人(保護者・職員・地域)が食経験や栄養の理解を深めることが大切である。

研究発表から①職員の意欲的な栽培活動と地域への働きかけにより、子ども達の豊かな経験となつた。②お口ぽかんを着眼点とした研究で保護者にファードバックをしたことは家庭との共通目標となつた。③子どもは見たことのない食物に拒否反応があるため、幼少期の食経験の豊かさを伝えて欲しい。発表内容を活かし、食と教育に携わる者が、今後も食育の土台作りに研鑽していただきたい。

発表(三) 食に対する興味、関心のあり方を深める

食べる意欲が薄い、偏食、食事のマナー、食物アレルギー児の増加による職員や保護者



第七分科会

園づくりを進める。

発表(二) コロナ禍からの脱出

テーマ 「保育の社会化に向けて ～保育の営みをいかに社会に 発信するか～」

発表者

①富士市 わかくさ保育園

②牧之原市 細江保育園

③湖西市 きりつ保育園

代表 小野 哲郎

議長 藤枝市 あおぞら保育園

園長 棚葉 省子

園長 殿村 智子

園長 棚葉 省子

園長 殿村 智子

助言者より

コロナ禍を経て迎えたこの年に「保育の社

～地域との繋がりをもう一度～

かつて地域と深く関わっていたが、コロナ禍で交流が途絶え孤立した。そこで、地域とのつながりを再構築するための研究を行つた。地域の協力によつて園では体験できない活動が可能になり、災害時の避難先や支援の存在も再確認できた。また、園の発信をきっかけに地域主体の交流の場が増え、こどもたちの存在をより身近に感じてもらえた。今後も「こどもまんなか社会」の実現を目指し、地域とのつながりを深めていく。

発表(三) 身近な社会から共感を得る

本園は〇〇二歳児対象の小規模保育園であり、開園から五年が経過した。小規模保育園の認知は広がりつつあるが、運営上の課題も多い。そこで、「保育の営みを社会に発信する」をテーマに、保護者のニーズに合つた情報発信を模索した。

研究を通じて、保護者の声を共有することでの職員の意識が変わり、寄り添う姿勢の大切さを実感した。共感を得ることが園と社会のつながりの基盤であり、今後も社会の変化を敏感に捉えながら、より良い保育の提供を目指していく。

ながらを持っていたが、時代の変化やコロナ禍の影響で関係が希薄化した。そこで、地域との交流を再開し、保育園の役割や発信の方法を模索した。今年度は慎重に取り組みを進めたが、地域の集まりに参加する中で、園の認知度の低下を実感。まずは園を知つてもらい、徐々に交流を深め、地域資源を活用した保育を目指したい。次年度は継続的な関わりと新たな取り組みを通じて、地域に根ざした

会化」をテーマに研究したことは大きな意味を持つ。小規模園の発表を初めて聞き、「社会に発信するとは何か」を改めて考える機会となつた。コロナ禍で孤立感を覚えた園も多く、地域へどう飛び込んでいくかが課題である。SNSだけでなく、地域のコンビニや薬局にチラシを置くなど、対面での発信が本当に必要な人へ届く手段となる。散歩や作品展への参加も地域への発信につながる。多様化する小規模園の役割や保護者との関係性を踏まえ、発信の目的を明確にすることが求められる。また、園の保育を発信する力は、保育士の確保にもつながる重要な要素もある。



第八分科会

テーマ【公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割】

のか」「何が育つて欲しいのか」等、自分たちの保育を見直す機会となり、保育士としての自覚を促すとともに、保育の質の向上にもつながっている。

発表者 ①御殿場市 市立原里第一こども園 園長 吉田 敏彦

②静岡市 市立東豊田中央こども園 園長 望月 明美

③御前崎市 市立さくらこども園 園長 山下 美幸

議長 浜松市 ありたまこども園 副園長 西川 町子

助言者 静岡英和学院大学人間社会学部 静岡福祉大学子ども学部

非常勤講師 德浪 芳江

記録者 浜松市 ありたまこども園 主幹保育教諭 古田 裕子

発表(一) 保護者・地域へ保育を伝える取り組みと保育の質の向上

保育を通した子どもの育ちを、クラスだより・園だより・掲示により保護者に伝えたり地域通信等で地域や学校に保育を分かりやすく伝えた。また保育を分かりやすく伝えることで保育の質の向上を図った。子どもたちの育ちを文章で伝えることで、保護者が改めて気づく育ちもあった。保護者に分かりやすく保育を伝える取り組みは、これまで実践してきた保育の中で、子どもの「何が育つてきた

発表(二) 様々な関係機関との連携・学び合い

近隣や地域の私立こども園・保育園に支援サポート強化事業研修への参加を呼びかけ、特別支援教育について共に学んだ。また公立園の保育を公開したり、私立園の特色を生かした保育を見学するなど互いの保育を学び合う取り組みを行った。今年度から、保育ソーシャルワーカー事業をスタートさせ支援方法を学んだり、小学校への情報提供など連携を強化し、切れ目のない支援を実現している。

また「どろフレンズ」の開催をし外国籍の子どもや保護者の支援も行い、安心して子どもを産み育てやすい街の実現を目指す。

発表(三) スクラムで推進する途切れない教育

「スクラム・スクール・プラン」として、①園・小・中・高の途切れない教育で推進する子どもの育成②親の学びや育ちを応援する家庭教育支援③個性伸長教育の推進に力を入れている。みんなで「スクラム」を組み「相互理解」を基にした「こども観・教育観」の「観の共有」の深化が、途切れない教育の実現に繋がっている。御前に「帰ってきたくなる教育を！」を目指し、公立・私立の枠を超えて共に子どもを育てるという意識を持ち、より質の高い乳幼児教育を推進していく。

助言者より

こ・幼・保・小の連携を図る為には国も力を入れている「かけはしプログラム」が強く求められる。全ての子どもを対象とする中で配慮を必要とする子どもには特に手厚い支援が必要である。保育が量から質に変化する中で質の向上を図る為には私立園と共有・協働し支援に関する情報やノウハウをお互いに学び合うことが大事ではないか（効果的な学び）。公立園として今後、政令指定都市・各自治体から行われている実践から得た知見を全体の施設に還元していく役割がある。



県保育研究大会に参加して

浮島保育園 望月 裕巳

礎になつていることを踏まえ、これからの保育を実践していきたいと思います。

第一分科会

子ども達を取り巻く環境が大きく変化している中、どの園の実践も新たな課題を子ども達と一緒に考えようと、様々な創意工夫が取り入れられていました。保育者自身が時代の変化を把握し、興味を持ち、保育の中に新しいことを取り入れてみることの大切さを学びました。

また、長倉先生より「どんな時代においても幼児期に大切にすべきことは、やりたいと思つたときに大人が手助けしてくれ実現できた経験を積み重ねること。その経験が、少し難しいことでもやつてみよう、考えてみようと思える力となる」という助言を頂き、学びのつながりを意識し、幼児期に必要な経験を積み重ねていくことの大切さを再確認しました。

静岡市立中田こども園 小池 亮子

第一分科会

三つの市町の発表でしたが、どの園においても各地域の特性を生かして、配慮を必要とする家庭への支援を行つてることがよく分かりました。川根本町の先生が「町の子どもは町で育てる」と仰つていた事が印象的でした。

療育的なことに限らず、様々な面で配慮が必要な家庭が増えていきます。必要とされる支援が、保育士という専門性を最大限に生かし、自分の置かれている状況の中でいかにできるかがポイントです。そのためにも、まずは日々自園の保護者の思いをしっかりと受け止める事を大切にしたいと痛感しました。

そして、富士宮市の各関係機関と連携を図り、富士宮の子育てについて共に考えていくたいと強く思います。

富士宮市立上井出保育園 赤池 嘉江

第三分科会

保育者の資質向上については、保育課題の共有の重要性を感じました。他園の職員と保育で大事にしていることや保育実践を語り合つたり、園見学をしたりして、他園から学んだことを共有することで、自園での保育に生かすことにつながると思いました。

公・私立にかかわらず、市内のすべての園が園見学を受け入れ、学び合う取り組みは、他市町も大いに参考になる実践だと思いま

安全に育ち繋がるために、子育て支援センターがまず窓口となつて親子を引き入れ、受け止める器となつている事、そして地域を巻き込んで行う「子ども食堂」という斬新なアイデアに面白みや驚きを感じるとともに、私達が出来ることの可能性・視野が広がる感覚を覚えました。声の上げられない親子の発見など今後の課題もありますが、関係機関や市町

第四分科会

「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」三施設の発表は、今時代のニーズを考え取り組まれていらっしゃる事に学びが沢山ありました。

少子化、ネットに頼る子育て、孤立する親子など子育てに対しても希薄になる中で次世代を担う子ども達が安心



とつながり、新しい形も含め、今一度子ども
の最善の利益を考えていかなくてはと背筋が
伸びる思いがしました。

第五分科会

月坂保育園 井上 智子

今回、「子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくりにむけた環境機関とのネットワーク」というテーマを通して、多機関と連携する重要性を感じることができました。

保育士だけでなく、保護者や地域の方、児童福祉施設・教育機関などと密接に関わることで、より良い支援になると感じました。小学校との連携では、保育士として、学校との円滑な情報共有を心がけ、子どもが無理なく、新しい環境に適応できるよう、積極的に連携を図っていきたいと思いました。

今後は各職種の役割を理解し、お互いの専門性を尊重しながら、連携を深め、子どもにとって最善の環境を提供できるよう、積極的に多機関と協力していきたいと思いました。

初倉保育園 大関 那月

第六分科会

「家庭や地域との連携による食育の推進」をテーマに、各園の発表を聴き、子どもたちの食への関心や興味を引き出すために、様々なアプローチができることが分かりました。

地域の方々の協力を得ながら行つた栽培活



第七分科会

なかよし保育園 西條 ゆりか

食べ物が育つ環境や背景を知ることも、大事な食育のひとつであると学び、視野を広げる有意義な機会となりました。

月坂保育園 井上 智子

動、保護者に向けた講演会、アンケート調査など、食育を保育園内にとどめずに広げていくことで、子どもたち自身や保育者が学びをより深められるだけでなく、周りの大人にとつても刺激となり、意識が広がっていくという、食育の連携の大切さがわかりました。

また、「食育」は食べることだけではなく、食べ物が育つ環境や背景を知ることも、大事な食育のひとつであると学び、視野を広げる有意義な機会となりました。

第八分科会

富士市立杉の木保育園 秋山 琴美

「保育の社会化に向けて～保育の営み～」をいかに社会に発信するか～」というテーマの発表を聴講させていただきました。コロナ禍で、地域との関わりが途絶えてしまつたという園が多く、その代償は大きなものでした。

テーマに沿つて、それぞれの取り組みや切り口での研究発表を聞かせて頂きました。その中でも小さい規模の自治体では、連携の取りやすさを活かして園・小・中・高で目指す子供の姿を共有し、質の向上や保護者支援に取り組んでいました。小学校の校長先生が、園の環境を通して行う教育について価値付けしてくださっていることが心強く、自分達も頑張っていきたいと感じました。また、私立園との公開保育の取り組みも参考になりました。

参加者それぞれが今回の発表の中から持ち帰つたものを自分たちの園・自治体でどのように活かすのか、また改めて公立園としての役割や子供達のために何をしていくのかを考える機会になつたと思います。

静岡市立登呂こども園

富永 純子

令和六年度 新規採用予定職員研修会

東部支部

月 日 令和七年一月二十六～二十七日

会 場 エスプラットフジスパーク

参加者 四二名

今年度は、富士市にありますエスプラットフジスパークでの初めての開催となりました。常葉大学の跡地を利用した研修施設で景観も素晴らしい場所での開催でした。

まずは体育館にて開会式、室内交流を行いました。室内交流では研修期間の行動を共にする六つの班で室内オリンピックと題して、いくつかの競技を行いグループ内でのチームワークを高めました。

食事はビュッフェ方式で、スポーツ団体の利用も多い施設なので栄養バランスの考えられた食事でした。同じタイミングで宿泊していたインドネシアのアンダ一二〇の女子サッカー代表の方たちのために、ハラールの札が置いてある料理も並んでいました。

午後は「保育者とし

てのあり方・服務接遇」として、コーチングネットワーク土方良子氏の講義を行いました。四月最初の表情・声があなたのイメージになる。いつ誰が見ても分かる文章を正しく書く。相手の話を聞いていない時、正しく伝えていない時にトラブルが起きる等のお話をとても分かりやすく、ペアワークを交えながら、教えていただきました。

次に、フジ社会保険労務士法人の小豆川善久氏による「労務・ハラスメントについて」の講義を行いました。ハラスメントの動画も交えながら、どんなときにハラスメントが起こるのか。どんなことがハラスメントなのか等のお話をいただきました。

夕食後は実行委員長（鈴木）がグループワークを行いました。一日の振り返りとレクリエーションゲームを通じて「職員連携」や「伝えることの難しさ」について考えながら研修生の交流を主に楽しみました。

二日目は、壮大な富士山、茶畑の素晴らしい環境の中で、気持ち良い散歩からスタートしました。

最初の講義は、浜松こどもとメディアリテラシー研究所の長澤弘子氏による「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」でした。自分の情報を守つていただけの今から、これからは人の情報・園の情報を守るということになつていく等、今後の心の持

ちようや想像力の大切さ等を学びました。

昼食後、静岡県保育連合会土山雅之会長に

「保育園・認定こども園にとって一番大切なこと・保育所認定こども園の使命と役割」として、保育を取り巻く日本の現状や子どもの

発達に適切な環境について、保育連合会の活動について、最近の保育界の動向等のお話をいただきました。

最後の講義は、しいの木保育園園長名倉喜美江氏から「あなたにとつて一番大切なこと・保育者の使命と役割」について、保育士会の組織や、保育者としての心のありよう等のお話をいただきました。

閉会式では、青野貴芳支部長より有機的統合理論から感じた気づきのお話を交えながら研修生へのエールが送られ閉会しました。

全体として、学生から社会人へのギアチエンジ、社会人としての心の持ちようの講義で、研修中には多くのグループ討議があり研修生同士の交流、横のつながりが育されました。

終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様、施設スタッフの皆様にご協力いただき新規採用予定者等職員研修会が無事に終了できましたことを感謝申し上げます。

実行委員長 まりあ保育園

園長 鈴木久敬



中部支部

月 日 令和七年一月十八日～十九日
会 場 焼津青少年の家
参 加 者 六二名

今年度も焼津青少年の家にて、一泊二日の日程で新規採用予定者研修会を行いました。

焼津駅前に八時三十分に集合。順次バスに乗り込み出発。焼津青少年の家に着き待つていた実行委員に促され荷物を置き九時から入所式、開講式が始まりました。

県保連中部支部長の北山茂氏の挨拶、焼津青少年の家の所員さんからのオリエンテーション、研修生決意表明へと続いていきました。

次の班別打合せでは生活指導係が各自の自己紹介、青少年の家の生活の仕方や事前レポートの回収等を行いました。

十時二十分より県保育連合会会長の土山雅之氏より講義一「保育所・こども園等の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命について講義して頂きました。

十一時十分からは県保育士会会長 吉川慶子氏より講義二「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、子どもの権利条約等について講義して頂きました。

昼食を班別に頂き休憩の後、十三時より明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの食、記念写真撮影を行いました。

実技指導が体育館にて行われました。手遊びやグループに分かれての体を動かした遊びを取り組み、研修生たちも実行委員も楽しく実技を行いました。

実技が終わった後、五分ずつ程ですが以前この研修に参加し、現在現場で働いている先輩保育士二人に現在の心境や想いを聞かせて頂きました。

十四時四十五分から十六時三十五分まで一から五班と六から一〇班に分かれ片方がチャレンジラリーを行っている間、もう片方は室内で「現場からのアドバイス」を行いました。

チャレンジラリーは各班六つのゲームを速さと正確性を両立し時間内にクリアしながら合計得点を競い合いました。

現場からのアドバイスは生活指導係（実行委員の園長・主任先生）が各班に付き講義を聞いて思つたこと・現場に入る前に不安に思つていること云々を一緒に話し丁寧にアドバイスをして頂きました。

十六時五十分から体育館に戻り夕べの集いを行いその後、夕食、休憩（就寝準備含）、入浴となりました。今年度から順番に入浴をしていく十九時三十分から二十一時三十分まで食堂に暖かい飲み物やお菓子を用意し、実行委員と研修生みんなが集うカフェタイムを設けました。講義や実技の時間とは違い和やかな時間を過ごすことが出来ました。

二日目は、七時十分から朝の集いを行い、朝食、記念写真撮影を行いました。

副委員長 有度十七夜山保育園

園長 笠井友泰

九時より講義三「子どもと絵本」というテーマで駿河こどものと社高林快晴氏より「絵本の楽しみ方」の講義を受けました。

昼食、部屋の片づけの後、講義四是十三時より土方良子氏より



「保育者としてのあり方（服務接遇）」の講義を行いました。社会人として、プロとしてやっていくためにとてもになる講義を両氏から頂きました。研修生一人ひとりが自信を持って現場に出ていく指導を頂けたと思います。

閉講式が終了しバスで帰つていく研修生は四月からの職場に向けて希望を持ち、笑顔で帰つていったように思えました。

終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様にご協力頂き新規採用予定者研修会が今年度も無事に終了できましたことに感謝申し上げます。

西部支部

月 日 令和七年一月十三日～十四日
会 場 静岡県立三ヶ日青年の家
参加者 八三名

三ヶ日青年の家にて一泊二日の日程で開催となりました。

講義一では静岡県保育士会の野中徹副会長より「保育者としての自覚と責務」というテーマで講義をして頂きました。講義の冒頭「子どもは好きですか?」と野中先生の問いかけに受講生が大きくうなずくと「保育者として合格です。」このやり取りで受講生の緊張も和らぎました。四月から保育のプロフェッショナルとして大きな責任が発生すること、働く上では私たち保育者も幸せであることが大切であることを保育のしおりを基に講義頂きました。

講義二では静岡県保育連合会の土山雅之会長より「保育所・認定こども園の役割と使命」というテーマで講義を頂きました。急激に進む少子化・定員割れ問題などの保育情勢について講義頂きました。

また、保育者の処遇については配置基準の変更や保育者の給与等の処遇改善についてわかりやすく解説頂きました。

講義の最後には自主的に学びスキルアップする事、質問することを恐れない事は保育者・人間として成長するために欠かせない姿勢で

あることを学びました。
午後は恒例となつて施設周辺のウォーキングを行いました。受講生を十一班に分けチェックポイントごとに設けられた課題をクリアしながらのウォーキングでは自然とチームワークが築かれ研修の目的でもある保育者同士の親睦を図る良い機会となりました。

夜には講義三として「子どもと絵本をひらくとき」をテーマに浜松こどものとも社の安田友昭氏より講義をして頂きました。具体的な絵本の選び方や活用方法などを学びました。

また、講義中にはけん玉を披露して頂き遊びの重要性や導入の方法などを学ぶ機会も頂きました。

二日目午前には「現場からのアドバイス」として各班に分かれ、保育者として働くにあたり感じている心配や不安についてグループワークを行いました。研修後のアンケートからも不安の軽減や自分一人だけが抱える課題ではない事を共有することで四月から勤務する準備が整えられたのではないかなどと思いました。

講義四では「社会人として大切なこと」、「人間関係と服務接遇」というテーマでコーチングネットワーク静岡代表の土方良子氏より講義を頂きました。

グループワークを中心に表情や目線、声のトーンなど保育現場において「不快の種をまかない」人間関係を築く上で大切なことを学

ぶ機会になりました。

講義五では「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性」を

テーマに浜松

子どもとメデ

イアリテラシ

ー研究所の長澤弘子氏に講義を頂きました。社会人と

して園に所属

している背景

を自覚しSNSによる情報

発信によって起こり得ることを想像する事、発信する事については自分で考え決める「自己責任」が伴う事を改めて学ぶ機会となりました。

今回の研修では一日目の夕方から施設周辺地域の停電に伴い、講義時間の調整、照明や暖房設備が使用できないなどの経験をしました。講義の一部が実施できない大変残念な結果となりましたが、受講生や実行委員のご協力により無事研修会を終えたことに感謝申上げます。

実行委員長 豊田みなみ保育園

園長 宮城 翔太



新規採用職員研修会

令和7年度

期日 令和7年5月29日(木)~30日(金)
会場 静岡県総合社会福祉会館
参加者 60名

新規採用職員を対象に、保育施設に勤務する職員としての態度と心構えの自覚を高め、職場への円滑な適応を図るための研修が二日間にわたり六講義開催されました。

一日目

講義① 「保育所・こども園等の使命と役割」

県保連会長 土山雅之氏

講義② 「保育者の使命と役割」

県保育士会長 吉川慶子氏

講義③ 「新人保育士の責任とプライド」

小田原短期大学
名誉学長・教授 小沼肇氏

講義④ 「SNS利用時の倫理的判断と行動の重要性について」

NPO法人浜松どもとメディアアリアシー
研究所代表

長澤弘子氏

二日目

講義⑤ 「子どもと絵本」

駿河子どもとも社 高林快晴氏

講義⑥ 「保育者としてのあり方」

コーチングネットワーク静岡代表

土方良子氏

二日間の六講義では、グループに分かれて新規採用者同士の意見交換をする時間が多くの設けられました。グループになる度に、自分で考えたり相手の話に耳を傾けたりして、与えられたテーマについて和やかな雰囲気の中で意見交換することができました。



参加された職員は、今回の研修を今後の保育に活かして専門職としての誇りを持って臨んでほしいと思います。

令和7年度

青年部会総会・シンポジウム

期日 令和七年五月二十二日(金)
会場 静岡県総合社会福祉会館 講堂



今年度の青年部全体集会と合同研修会は久しぶりの静岡県総合社会福祉会館（シズウェル）の講堂で開催しました。全体集会では、保育連合会会長の土山雅之先生より、今後の保育業界についてのお話や、青年部員にむけてのエールをいただきました。また青年部会長の後藤先生からは、「誰でも通園制度や保育のDX化について、「持続可能な組織として皆さんと一緒につくっていきたい」「サードプレイス」という考え方のもと第三の場所をつくっていきたいとのお話がありました。

全体集会後、合同研修会ではまずはじめに、子ども家庭庁の担当者より行政説明を行っていただきました。説明では来年度から本格導入される「誰でも通園制度」についてお話をいただきました。

次に研修会②としまして、「子どもの権利条約について」をテーマに講師に全国私立保育園連盟常務理事 丸

山純先生にご登壇いただきました。丸山先生は現在、千葉県八千代市の保育園「勝田保育園」の園長先生であります。子ども

の権利条約・こ

ども基本法を踏ま

えて「現場」とつ

ながる具体的な取

り組みを紹介し

ていただきました。

まずは「子どもの権利」について、子ど

もの権利条約が定められた経緯や四つの原則

について、基本的な情報を共有し、意見や感

想を言い合いながら理解を深めました。講義

の中では実際に保育の現場であるようなケー

スを四コマの漫

画で紹介したケ

ースがいくつか

あり、それらを

グループごと考

え、各グループ

でも「あるある」

と同じことあつ

たね」などの声

も聞こえてきま

した。楽しい時

間は本当にあつ

という間で、最

後に各グループ

で「五・七・五」

保育川柳を作つ

てもらひ終了と

なりました。こ

れまで行つてき

た研修のグルー

ープワークの中で

も今回は特に各

グループで考

え、また交流が

持てた時間はな

かつたと思います。

今回の研修をうけた方々

からも早速園に戻つて先生のお話を伝えます

等のご意見も聞かれたので今回も有意義な時

間を過ごせたと感じました。



● 実績報告 八月二十二日

令和七年度 男性職員交流研修会

(西部支部)

部会報告

部会長 すみれ認定こども園 後藤恭佑

今年度も青年部会の活動も活発になっています。アンテナを張り情報過多の時代でも何が大事で今どんなことが起きているのかを敏感にとらえ、皆さんと共有できればと思っています。引き続き会員の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

各支部だより

東部支部

支部長 中里保育園 青野貴芳

一、総会及び施設長研修会

期日 令和七年五月二十一日（水）

会場 プラザヴエルデ

講師 広瀬友紀氏（東京大学大学院教授）

テーマ 「子どもに学ぶ言葉の不思議…まちがいからわかること」

二、危機管理研修会

期日 令和七年七月十六日（水）

会場 プラザヴエルデ

講師 脇貴志氏（株）アイギス代表取締役

テーマ 「園内の事故等発生後の対応について」

三、中堅保育者研修会

期日 令和七年八月二十七日～二十八日

会場 箱根の里・プラザヴエルデ

講師 勝又ひで子氏（アップハート代表）

川村結里子氏（ペップトーキ普及協会）

遠藤昌弘氏（心理カウンセラー）

四、保育の日研修会

期日 令和七年十月十一日（土）

会場 沼津市民文化センター

講師 大友 剛氏（ミュージシャン&マジシャン）

テーマ 「マジックと音楽と絵本のコンサート」

五、新規採用予定職員等研修会

期日 令和八年二月十六日～十七日

会場 富士市エスプラットフジスパーク

講師 未定

六、民間部会施設視察研修会

（未定）

七、青年部会・行政部会

（未定）

中部支部

支部長 有度十七夜山保育園 笠井友泰

一、総会及び施設長研修

期日 令和七年四月二十三日（水）

会場 静岡県総合社会福祉会館

講師 家族保育デザイン研究所

代表理事 汐見稔幸 氏

テーマ 「からだ・食べ物・健康」そんなことから保育を考えてみよう～」

二、職員研修会

期日 令和七年七月三日（木）

会場 焼津ターントクルこども館・橋本組

講師 こども館職員 小栗氏・北野氏

テーマ 「五感を磨き、高い感性の保育者を目指して」

三、中堅保育者研修会

期日 令和七年九月九日（火）

会場 静岡県総合社会福祉会館

講師 アサートイブジャパン

認定講師 谷澤久美子 氏

四、フォローアップ研修会

期日 令和七年十月二十九日（水）

会場 静岡県総合社会福祉会館

講師 コーチングネットワーク静岡

代表 土方良子 氏

テーマ 「エール研修」がんばっている君たちへ

五、新規採用予定職員研修会

期日 令和八年二月十六日～十七日

会場 エスプラットフジスパーク

西部支部

支部長 まつばごども園 山田佳敬

一、総会及び施設長研修会

期日 令和七年五月十九日（月）

会場 アクトシティ浜松

講師 今泉歯科院長 今泉三枝 氏

テーマ 「お「育て」で楽しく美味しく健康に！」

二、中堅職員研修会

期日 令和七年七月二日（水）

会場 アクトシティ浜松

講師 慶應義塾大学教授 今井むつみ 氏

テーマ 「自ら学ぶことができる学び手になるために幼児期にするべきこと」

三、男性職員交流研修会

期日 令和七年八月二十二日（金）

会場 福祉交流センター 小ホール

講師 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 広瀬統一 氏

テーマ 「遊びで育む非認知能力！」今こそ育てたい目に見えない力！」

四、初任職員研修会

期日 令和七年九月一九日（金）

会場 福祉交流センター

講師 絵本作家 山口マオ 氏

五、危機管理研修会

期日 令和七年十一月二十日（木）

会場 弁護士法人かなめ 畑山浩俊 氏

六、新規採用予定職員研修会

期日 令和八年二月十六日～十七日

会場 三ヶ日青年の家

研修委員会

委員長 桜木こどもの森 岡田博次

新たな制度、加速する少子化、多様化する子ども・保護者・保育者。変化し続ける社会において、我々が研鑽を重ね知見を深めることは喫緊の課題となっています。

今年度も、保育の質の向上につなげるべく充実した研修計画を進めて参りますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

新採研修（五月）では、約六十名の参加者が、保育士（所）の使命と役割、SNS利用時の倫理的判断、接遇等について学びました。所長研修会には、川田学氏（北海道大学・教授）をお招きし、子どもの主体性についての学びを深めました。

育児相談研修会では、本年度も有沢孝治氏（東海大学・教授）をお招きし、保護者支援について理論と実践を学びました。

年度内に計画中の研修会は次の通りです。

○民間園長研修会（十月二十三・二十四日）
○施設長研修会（十二月十九日）
○新規採用予定職員研修会（二月・各支部）
※本年度より東部・中部支部合同開催

予算対策委員会

委員長 中里保育園 青野貴芳

周知の通り、四・五歳児及び一歳児の配置改善に対する加算措置が始まりました。配置基準の改善を、更に要望していく必要

認定こども園委員会

委員長 慈恩こども園 土山龍之

二〇〇六年十月から、認定こども園制度が始まりました。それから県内でも約二十年の間に、公私立・施設類型は様々に三八〇園

があり、さらに、今回の加算措置に合わせて県や市町からの従来の補助がなくならないよう注視していく必要があります。

そのため、県保連では、配置基準の改善を中心、以下の九項目を静岡県に要望します。

①職員配置基準について、特に、(1)乳幼児保育事業の充実について(2)四・五歳児の配置基準(3)調理員の配置基準(4)開所時間や利用児童数に対する配置基準(5)延長保育事業への補助について(6)「特別な配慮が必要な子」の増加、の観点から改善を要望します。②キャリ

アアップ研修受講定員数の増加について要望します。③園児数の減少、定員割れへの対応について要望します。④物価高騰への対応に進のための環境改善支援策を要望します。⑥年度途中入所サポート事業の継続について要望します。⑦南海トラフ地震等大震災に対する安心・安全な施設の充実が図られるよう要望します。⑧産休等代替職員雇上事業の補助基準額の増額について要望します。⑨不適切保育等事案が発生した際の対応ガイドラインの選定や第三者委員の候補リスト作成を要望します。

六月下旬に第一回目の委員会が開催され、各委員から現状や課題などが挙げられ議論されました。年度内に数度の会議を行い、当委員会の方向性を確立して、加盟園が地域子育て拠点として中核を担つていくための手伝いをしていければと考えています。

キャリアアップ委員会

委員長 ルンビニあゆみ園 野中 徹

令和七年度の静岡県保育士等キャリアアップ研修会は昨年度のeラーニングの募集人員をさらに三二〇名増の受入れを確保し実施します。

毎年、定員を増やしつつおこなっているキャリアアップ研修ですが、いまだに定員を上回る申し込みがあり、多くの方が受講不可となっている現状があります。経験を積んだ職員の知識・技能の向上に応じた追加的な賃金の改善にあたり、対象者の認定が修了しても、

超える施設がこども園へ移行しています。静岡県保育連合会として、県内の加盟園に対し「認定こども園の現状や課題を整理し、情報発信や対応策などを検討する」「認定こども園への移行を検討している施設について支援をしていく」「公立・民間会員の現状や課題について整理・把握し、認定こども園他団体との協力体制の構築について検討する」など、「認定こども園特有の課題」へのサポートをしていくために、この委員会が立ち上げられました。

～活動の報告と計画～

対象者の産休育休・退職などを考慮すると、まだまだ研修受講者が多くいることが予想されます。何より、資質向上のためのキャリアアップ研修です。四分野のみならず残りの分野も学びたい方が多くいることでしょう。

受講された皆様が本来の目的である保育の質の向上につながり、研修の効果を十分に得られるよう今年度も計画させていただきました。引き続きご理解とご協力よろしくお願ひいたします。

昨年度は四年ぶりに海外交流研修が実施され、南シナ海に面した東南アジアの国「ベトナム」の保育施設を視察してきました。

今年度は「タイ・バンコク」にあるドゥアーン・プラティープ財団というNGO団体が運営している幼児施設とバンコク郊外の幼稚園を訪問する予定です。ドゥアン・プラティープ財団はタイ最大のスラム、クロントイの住民を支え続けていて、財団の創立者プラティープ氏は「アジアのノーベル賞」と言われている「マグサイサイ賞」を受賞しています。

バンコク市内においては、グループごとに分かれテーマに沿った研修、フィールドワークプログラムを新たに取り入れる予定です。

日本とは違う保育教育、文化や生活に触れ見聞を広めると共に、研修期間と共に過ごす仲間との親睦を深めるとてもいい機会になりますので多くの皆さまにご参加ただきますようお願いいたします。

広報委員会では、これからも新しい企画を募集しておりますのでご意見、ご感想をお寄せください。

協力し、七月・十一月開催のリーダーセミナーにおいて、実習・採用に関連した各施設の課題・負担感・不安などを調査し、県保連および養成施設と情報共有するとともに、マニアルに反映させる予定です。

毎年十一月は児童虐待防止推進月間と定められており、静岡県でも「児童虐待防止静岡の集い」が静岡市民文化会館中ホールで開催されていました。今年は、ベルテックス静岡様ご協力のもと児童虐待防止のためのイベントや各地区でのライトアップなどがあるよう

対象者の産休育休・退職などを考慮すると、まだまだ研修受講者が多くいることが予想されます。何より、資質向上のためのキャリアアップ研修です。四分野のみならず残りの分野も学びたい方が多くいることでしょう。

受講された皆様が本来の目的である保育の質の向上につながり、研修の効果を十分に得られるよう今年度も計画させていただきました。引き続きご理解とご協力よろしくお願ひいたします。

昨年度は四年ぶりに海外交流研修が実施され、南シナ海に面した東南アジアの国「ベトナム」の保育施設を視察してきました。

今年度は「タイ・バンコク」にあるドゥアーン・プラティープ財団というNGO団体が運営している幼児施設とバンコク郊外の幼稚園を訪問する予定です。ドゥアン・プラティープ財団はタイ最大のスラム、クロントイの住民を支え続けていて、財団の創立者プラティープ氏は「アジアのノーベル賞」と言われている「マグサイサイ賞」を受賞しています。

バンコク市内においては、グループごとに分かれテーマに沿った研修、フィールドワークプログラムを新たに取り入れる予定です。

日本とは違う保育教育、文化や生活に触れ見聞を広めると共に、研修期間と共に過ごす仲間との親睦を深めるとてもいい機会になりますので多くの皆さまにご参加ただきますようお願いいたします。

広報委員会では、これからも新しい企画を募集しておりますのでご意見、ご感想をお寄せください。

保育者養成委員会

委員長 野中こども園 中村章啓

昨年度、静岡県保育連合会独自の保育実習受入マニュアル作成のために立ち上げられた「実習受入マニュアル作成委員会」の後継委員会として発足しました。マニュアルの実効性を高め、会員園の保育実習の質が向上することを通じて、将来の保育を担う保育学生が安心して実習に臨めることを第一の目的に活動していく予定です。

また、保育の一〇二五年問題を見据えつつ、当面の保育士不足の解消を重視して、県保連と保育士養成施設との連携を強化するために、意見交換会等における議論の充実のために調査・研究等も視野に入っています。

六月末に第一回委員会を開催し、マニュアルの早期完成・配布を目指すとともに、様式集・FAQなどの付帯資料も作成を進めるようになりました。そのために、県保育士会と

海外交流委員会

委員長 認定こども園 原町保育園 鶴谷由美子

協力し、七月・十一月開催のリーダーセミナーにおいて、実習・採用に関連した各施設の課題・負担感・不安などを調査し、県保連および養成施設と情報共有するとともに、マニアルに反映させる予定です。

毎年十一月は児童虐待防止推進月間と定められており、静岡県でも「児童虐待防止静岡の集い」が静岡市民文化会館中ホールで開催されていました。今年は、ベルテックス静岡様ご協力のもと児童虐待防止のためのイベントや各地区でのライトアップなどがあるよう

少子化対策委員会

委員長 認定こども園 原町保育園 鶴谷由美子

協力し、七月・十一月開催のリーダーセミナーにおいて、実習・採用に関連した各施設の課題・負担感・不安などを調査し、県保連および養成施設と情報共有するとともに、マニアルに反映させる予定です。

毎年十一月は児童虐待防止推進月間と定められており、静岡県でも「児童虐待防止静岡の集い」が静岡市民文化会館中ホールで開催されていました。今年は、ベルテックス静岡様ご協力のもと児童虐待防止のためのイベントや各地区でのライトアップなどがあるよう

保育所、認定こども園利用者以外に子育て支援への関心と理解を求める啓発活動の経費（一事業五万円）を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。各支部三事業の予算を組んでおりますのでご利用下さい。

また、啓発品についてデザインも新たになつた「あいあいホットマーク」のクリアファイル、付箋セットのほか、ピンバッヂなどもありますので、協力金へのご支援もよろしくお願いいたします。

広報委員会

委員長 沼上こども園 森下健一

これからたくさん的情報発信していきたいと思います。

広報委員会では、これからも新しい企画を募集しておりますのでご意見、ご感想をお寄せください。

[全私保連推奨] 各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレビュー・ションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店
有限会社ゼンポ
TEL: 03-3865-3881
FAX: 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社
担当課支社: 公務二部 文教公務室 TEL: 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付傷害保険・会社役員賠償責任保険・レビュー・ション費用保険（レビュー・ション費用特約条項付 費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881

FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）



きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・登録者数無制限

すべての機能使い放題／

月額 5,500円(税込)

無料体験実施中! →

お申し込みは
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に
きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886

印刷物からノベルティまで おまかせください。



紙加工品のことなら**大日三協**へ

大日三協は、FSC 森林認証 (COC 認証) を取得し、
森林認証紙の取り扱いをしています。



大日三協株式会社

静岡県静岡市葵区流通センター12番1号
TEL:054-265-5501 FAX:054-265-5502

しづおか保育士・保育所支援センター

静岡県・静岡市
委託事業



保育の仕事がしたい方と

人材を求めている保育所等との橋渡しをします

すべて無料で利用できます！

- ・各種相談（採用、労務等）
- ・事業所、求人登録
- ・求職者の紹介
- ・就職フェアへの出展 等



2018～2023年の
637名

多くの方に採用活動・就職活動のパートナーとして、
当センターを選んでいただいている。丁寧なマッチングが私たちの強みです。



事業所登録は
こちら♪

福祉のお仕事
保育のお仕事をお探しの方はこちら！

検索方法

福祉のお仕事 トップページ ▶ 求人を出す を選択・クリック

② <https://www.fukushi-work.jp/>



STEP1

「福祉のお仕事」から
事業所登録

STEP2

求人票を
作成

STEP3

しづおか保育士・保育所支援センターが、
求職者に求人のご案内をします!!

「福祉のお仕事」
ホームページ

お問い合わせ

福祉人材無料職業紹介所
厚生労働大臣許可



社会福祉
法 人

静岡県社会福祉協議会

中西部

静岡県社会福祉人材センター
しづおか保育士・保育所支援センター

TEL: 054-271-2110

住所: 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館 シズウェル 3階
開所: 月～金曜日 (8:30～17:00) ※祝日除く

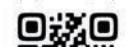
東 部

静岡県社会福祉人材センター東部支所

TEL: 055-952-2942

住所: 〒410-0801 沼津市大手町1-1-3
沼津産業ビル2階
開所: 月～金曜日 (8:30～12:00/13:00～17:00) ※祝日除く

ホームページ



instagram



さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう！ www.tobutoptours.co.jp



“Warm Heart”

～ありがとうの連鎖を～



東武
トップ
ツアーズ

静岡支店

〒420-0859

静岡県静岡市葵区栄町3番1号
あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F
TEL.050-9001-9697 FAX.054-252-9509

OA機器・システム商品・オフィス家具

経費削減のお手伝い

見積・相談無料



株式会社 Net

Net 沼津 検索  TEL 055-939-6100



沼津市米山町 12-15

まづなレコ

こども園・保育園・幼稚園向け
保育支援ICT

保育士の負担を軽減し保護者とのコミュニケーションを円滑にすることで、より質の高い保育を提供できます！

らくらく更新Web

園の紹介、情報公開は
簡単便利なホームページで！

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバ
ム等が園のパソコンで簡単に更新でき
ます！

チェックインシステム

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答
集計、閲覧状況、受信状況も把握でき
ます！

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2 <http://www.dataeast.co.jp>
TEL:055-976-1057 FAX:055-976-1057 E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp



株式会社 データサービスセンター

さまざまな危険からお子さまをお守りする

2024年版

『キッズガード』 (園児総合保障制度 (こども総合保険))

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起らるのか予想もつかない事故の、確かな"おまもり"として本制度をお届けいたしております。

S-240663(202408)

AIG損害保険株式会社

静岡支店 〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-1

AIG静岡ビル5階

TEL : 054-255-5141

浜松支店 〒430-7715 浜松市中区板屋町111-2

浜松アクトタワー15階

TEL : 053-454-0321

沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町2-10-14

TEL : 055-963-8081

未来は、遊びの中に。



編集記

広報委員会の活動も慣れてきましたが、新たな気持ちで頑張って努めて行きたいと思います。よろしくお願いします。

今期も広報委員として活動させていただきます。健康に気をつけながら、楽しく過ごしたいと思います。よろしくお願いいたします。

暑さに負けてもいいじゃないか
今期もよろしくお願ひします。

下田の海でプカプカ浮かぶのが好きです。
津波に流されないよう気をつけます。

青岡市はのほの保育園 坂井多美
初めて広報委員会に来た時はまだ三十代でした
が気付なば四十代になりました。

数ヶ月後に近づいた健康診断に備えウオーキング台。然しごと内音

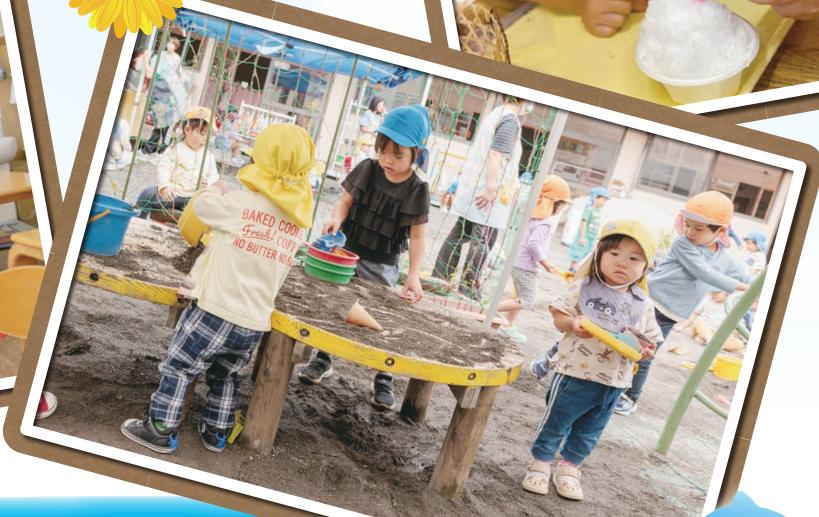
島田市 月坂保育園 奥川むつみ
夏祭りの一番人気はゲームコーナー、かき氷は

焼津市 第三ゆりかこ保育所 原崎かおり

す
大鼓の音色は気持ちが跳んでます
掛川市 きらきら保育園 八木大輔

は元気いっぱい。羨ましい限りです。
御殿場市 すみれこども園 鷹野一広

わんぱくひろば



「ほいく静岡」95号

発行日：令和7年9月30日発行

発行者：一般社団法人静岡県保育連合会

420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館

TEL：054-251-8873 FAX：054-253-4226

印刷所：大日三協(株)